

] 10 5r •

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.8 (1976) No.1

---

DI \* #Y(ò ! \ K Z b4 5ê ï!c(ò A1 Ÿ Ÿ »5ð b6ä\$î

Development of Continuously Cast Low Carbon Aluminium Killed Steel for D.I. Can

8ä#ä \*O (Yoshiharu Iida) V#ä ¾ / (Tsunehiro Ueda) ä0b ïj (Toshihiko Emi)  
É#Ö H /(Yasuhiro Habu) 7?4Š ,e µ(Hideo Abe) 0... ! &½ (Hideo Sunami) ,>2!  
7•j (Takehiko Haga) , ,e7• (Hideo Kuguminato)

---

0[ " :

DI \* #Y \ K Z 20[ ^5ð È b 2A"l ö † è0! K>\*(ò ! †4 5ê d&i [0 4 M • •/i †& 'g M •

## DI 缶用素材としての連鉄低炭素 Al キルド鋼の開発

Development of Continuously Cast Low Carbon  
Aluminium Killed Steel for D.I. Can

飯田義治\* 上田典弘\*\*

Yoshiharu Iida Tsunehiro Ueda

江見俊彦\*\*\* 垣生泰弘\*\*\*\*

Toshihiko Emi Yasuhiro Habu

阿部英夫\*\*\*\*\* 鱼南季夫\*\*\*\*\*

Hideo Abe

Hideo Sunami

芳賀雄彦\*\*\*\*\* 久々湊英雄\*\*\*\*\*

Takehiko Haga Hideo Kuguminato

### Synopsis :

Properties of steel strip for deep drawing, ironing and flange elongation after ironing have been investigated.

DiesDIマニュアル

## (2) アイオニング性

ビール用 DI 缶を対象とした DI 加工工程を次の 3通りに設定し、それぞれの工程における鋼種別の不良率を調べた結果を Table 1 に示す。

Table 1 Comparison of ironing property

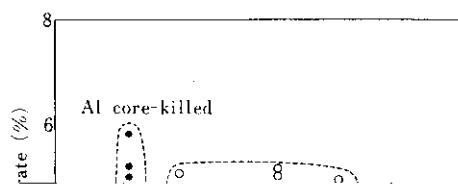
Steel type	Thickness	Dirtiness %	Success ratio of ironing process (%)		
			I *1	II *2	III *3
CC Al killed	0.33	1.53	0.027	100	100
Al core-killed	0.33	1.16	0.123	100	90
Rimmed	0.33	1.01	0.167	100	90
				50	

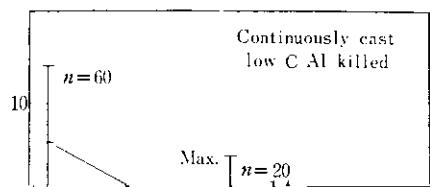
Process	Draw-ing ratio	Ironing reduction ratio*4 (%)	
		1	2
		1.2	1.3

浄性の高い Al キルド鋼が最もすぐれていることがわかる。

## (3) アイオニング加工後の伸びフランジ性

DI 製缶では、アイオニング加工後カップ端をトリミングし、その後、蓋取付けのためにカーリング加工するとき伸びフランジ変形をうける。一般にアイオニング圧下率の増加とともにない、伸びフランジ性は急激に減少するので、DI 缶用鋼板としてはアイオニング加工後の伸びフランジ性の良好なものが望ましい。



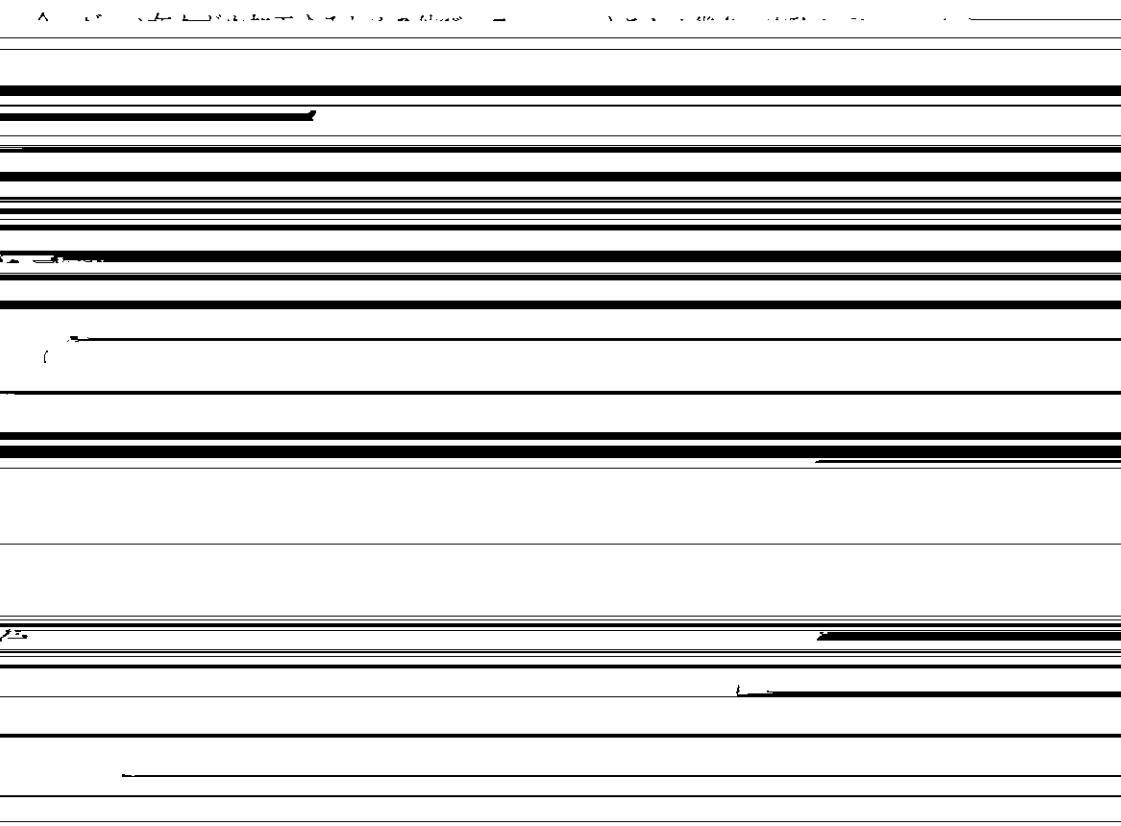


加工後の伸びフランジ率を高める方が好ましい。  
以上、DI 製缶時に鋼板に要求される絞り性、  
アイオニング性およびアイオニング加工後の伸び  
フランジ性について鋼種別に比較検討したが、総  
合すると Al キルビ鋼が最も適していると判断さ

図 11. 0.5%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 粉末表面の凹凸状況図 11. 0.5%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 粉末表面の凹凸状況

Inclusion type	Ironing reduction ratio	No. of specimens	No. of pinhole defects on the side wall
短い介在物	20	20	0

Table 2 に DI 加工後の表面観察結果を示す。  
短い介在物20例のうち2例にピンホールが発生し



ジ率の限界値を3.6%以上と考えた場合、介在物は厚み約 $2.5\mu$ 以上、エコー高さ(F/B)-45dB以上のものがカップ端にあると、限界伸びフランジ率が3.6%以下となり、フランジ割れ缶の発生が多くなる。一般にプレス用冷延鋼板としては、介

心となったDI製缶性に影響が大きい介在物の減少対策を主体にまとめた。

### 3・1 取鍋内溶鋼の清浄化

取鍋内の溶鋼由介在物を極力少くすすため、お

在物は約 $5\mu$ 程度までは許容されることが経験的

にも次のような対策を講じた。

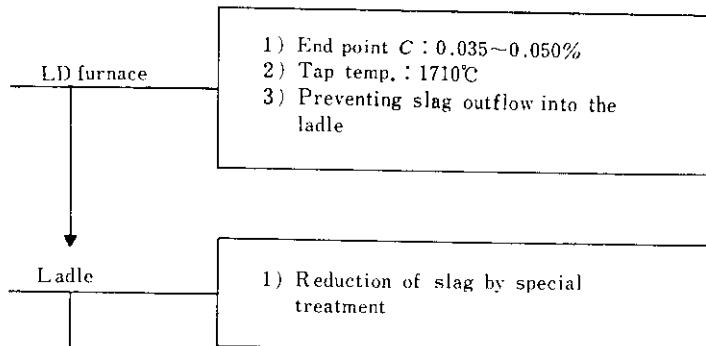
大型介在物の増大を招くばかりでなく、タンディ  
シュー内湯面フラックスの巻込みに基づくフラッ  
クス系介在物が増大する<sup>3)</sup>。そこでこれら介在物

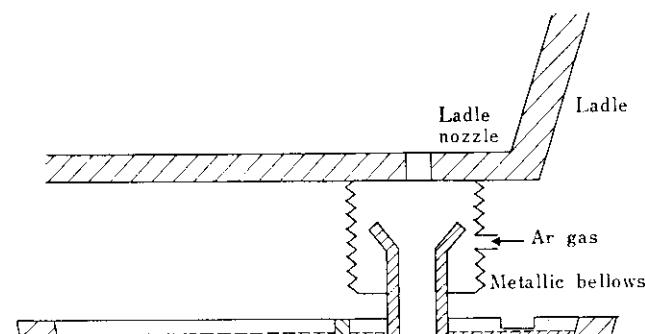
は、普通のオープン注入の A 法が最も多く約  
14~38mg/10kg-鋼であるのに対し、取鍋下  
に注入管のみを取り付けた B 法の場合は約  
2~10mg/10kg-鋼と A 法に比べて半減する。

January 1976

ヒラムサカシマホウセイ田舎 (カーネラー) 内の溶







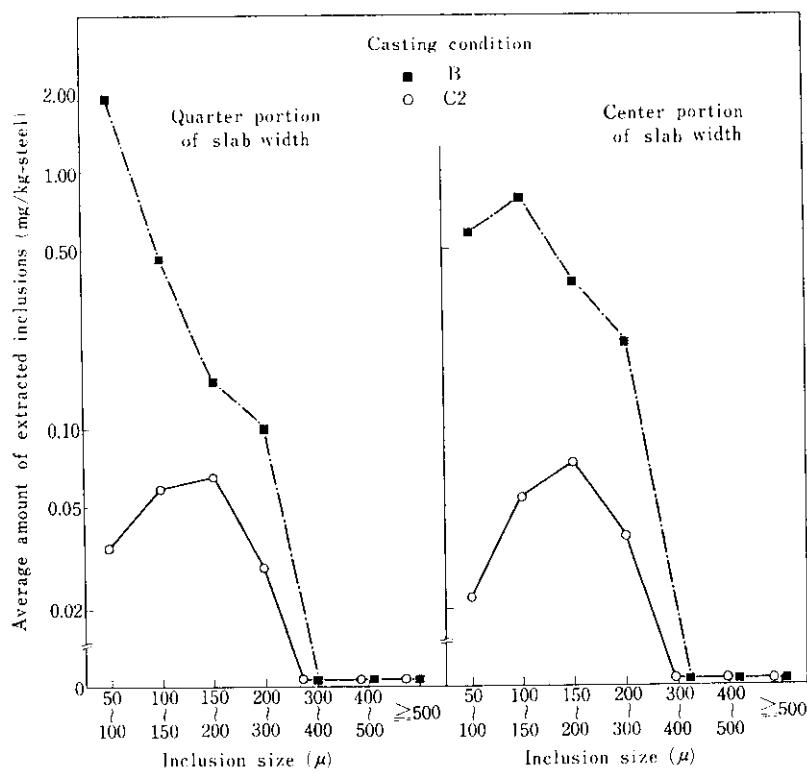


Fig. 17 Relation between casting conditions and the average amount of extracted inclusions

今回の一連のDI試作実験の結果から、大型介在物が多いと製缶時フランジ割れなどが発生しやすくなることがわかったが、割れの原因となるスラブ内介在物の臨界径がどの程度なのかはきわめ

超音波探傷の欠陥が0.2欠陥数/m程度（鋳込条件C）にまで低減できれば、介在物起因のフランジ割れはほとんどなくなることがわかったので、超音波探傷欠陥とスラブ内の介在物との関係を実験

Table 6 DI process achievement for each

す。超音波探傷欠陥はスラブ内の約 $100\mu$ 以上の大型介在物量と強い相関を有する。一方、超音波

上で得られた知見は次のとおりである。

(1) DI 加工性に適した鋼種を、絞り性、アイオ

(b) タンディッシュへの注入流の空気酸化防止に  
ペローズ式シールを採用し、タンディッシュフラ